

「モビリティ」の可能性を追求し、 社会に価値を提供していくために

急速に技術革新が進み、クルマ社会のあり方が大きく変化しつつある中、
住友三井オートサービス(SMAS)だからこそできる社会貢献とは何でしょうか。
株式会社日本総合研究所の足達英一郎理事と、当社代表取締役社長の露口章が、今後のビジョンについて語り合いました。

株式会社日本総合研究所
理事

足達 英一郎 氏

住友三井オートサービス株式会社
代表取締役社長

露口 章

お客さまとともにソリューションを見いだす現場感覚が、SMASの強み

近年、「持続可能な開発目標(SDGs)」やパリ協定などを参考にCSRを推進する企業が増え、お客さま側も、取引先を単にビジネスの相手としてだけでなく、社会的課題と向き合う姿勢まで評価して選ぶようになってきています。自分たちのビジネスが社会に与えるネガティブな影響にもきちんと目を向け、課題解決に向けた取り組みやその成果を正々堂々と説明していこうという機運が、多くの企業で高まっていると感じます。

お客さまとの接点の強さ、お客さまのニーズに精通し、共にソリューションを見いだす現場感覚が、御社の大きな強みですね。事業規模を活かし、クルマの運用に関するビッグデータを用いて安全運転やエコドライブの科学、といった分野に貢献することもできそうです。



足達 英一郎 氏



露口 章

信頼されるサプライチェーンとして、社会環境の変化をとらえる

当社のお客さまにはグローバル企業が多いため、信頼されるサプライチェーンとして、お客さまが求める品質はもちろん、お客さまが直面している社会環境の変化も、敏感にとらえ直していく必要があると感じます。お客さまのニーズは「クルマ」ありきではありません。クルマ以外の移動手段も含め、さらなる効率化の提案をしていきたいと思えます。

自動車業界では百年に一度の危機という言葉も聞かれますが、そこにこそチャンスがある。当社は経営理念の「Mission」に、「お客さまから支持される新たな価値と進化するサービスを提供し続けます」と掲げています。まず、安心・安全にクルマを動かすこと。そして、時代の変化を見据えながら、あらゆるモビリティの最適化に取り組むこと。それが我々の存在意義であり、使命だと考えています。

対談の全文は、WEBサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。<https://www.smauto.co.jp/company/csr/>

SMAS CSR

検索